

# 地方都市視察報告書

防災等安全対策特別委員会

1 実施日 令和4年8月30日（火）

2 視察地 鹿児島県鹿児島市

## 【市の概要】

(1) 面積 547.61km<sup>2</sup>

(2) 人口・世帯数

(令和4年8月1日現在)

○人口 598,505人

○世帯数 302,431世帯



(3) 鹿児島市は、鹿児島県本土中西部に位置し、鹿児島県内の薩摩半島の北東部及び桜島全域を市域とし、福岡市、北九州市、熊本市に次ぐ九州第4位の人口を擁する南九州地域の政治・経済・文化・交通の中心地である。

江戸時代、禄高77万8千石・天下第二の雄藩で薩摩・大隅（鹿児島県）・日向（宮崎県南部）の三国を治めた島津氏の城下町として発展し、以来500年にわたる島津氏の統治下のもと、鹿児島市は南九州一の都市として繁栄した。また、近代日本の黎明、明治維新においては、薩摩藩の元勳西郷隆盛・大久保利通など、幾多の人物を輩出し、近代日本建設の礎となる。

明治4年に廃藩置県とともに県庁の所在地となり、同22年には市制が施行された。その後、第二次世界大戦の戦火で市街地の約9割を焼失したが、戦後は観光・商工業の発展とともに市域も拡大し、昭和42年には隣接する谷山市と合併して人口38万人の新鹿児島市が誕生、同55年には人口50万人を突破した。

さらに、平成元年に市制施行100周年を迎え、平成8年には中核市に指定された。また、平成16年には隣接する5町と合併したほか、平成23年には九州新幹線が全線開通するなど、政治・経済・社会・文化等高次な都市機能が集積した南九州の中核都市として発展を続けている。

市中心部の対岸に位置する桜島は、現在もなお活発な火山活動を続け、活火山を抱えながら、これだけの人口規模を有する都市は世界的にも稀である。また、桜島に年間約900万人の観光客が訪れるなど、観光都市の側面も有する。

3 視察項目・内容

降灰対策を含む総合的な火山対策について

#### 4 視察参加者

##### 【委員】

小野 裕次郎委員長      三沢 ひで子副委員長      永原たかやす委員  
のぶケン委員      井下田 栄一委員      高月 まな委員  
大門 さちえ委員      久保こうすけ委員      有馬としろう委員

##### 【随行】

議会事務局議事係 波多野浩二 設楽拓也

#### 5 視察結果・所感

鹿児島市で「降灰対策を含む総合的な火山対策について」話を伺った。

過日にも報道されていたが、鹿児島市では日常的に桜島が噴火し、まさに噴火と共に暮らしてきた経緯がある。半世紀にわたり、避難や降灰対策など噴火にまつわる取り組みや防災教育がなされており、現在では「火山防災トップシティ構想」を打ち出し、火山防災スペシャリストの育成などに力を入れ、火山国際会議をはじめ世界でもこの分野ではリーダーシップを発揮している。

避難指示のあり方や避難計画について、説明を受け、消防団などの全戸訪問の体制や避難先の事前設定などについて質疑を行った。避難行動要支援者を含む全島避難訓練、避難用家族カードや避難完了板の活用など、避難やその後の効率的な活動について、新宿区でも十分に参考となる話も伺った。他では、「降灰の交通への影響」、「噴火による機器への影響」、「降灰の処理と市民の協力体制、その予算」など、幅広く質疑がなされた。火山灰の健康被害はないとのことであるが、噴火による観光への風評被害については、いつも頭を痛めているとのことであった。

新宿区では、避難計画やそれを実施しうる体制の整備など、十分に学ぶ点も多くあった。

#### 6 主な質疑項目

- (1) 大正噴火のような災害が東京で起きた時の対応について
- (2) 火山対策と震災対策の違いについて
- (3) 避難指示のあり方について
- (4) ビニール袋（克灰袋）の捨て方などの降灰の処理について
- (5) 火山灰が降った後の灰の処理方法について
- (6) 降灰除去に係る予算額について
- (7) 避難行動要支援者名簿の登録と活用について

#### 7 その他

##### 【共同視察者】

危機管理担当部危機管理課長  
安藤広志

